

一般社団法人 岩の力学連合会  
平成 29 年度・第 2 回常任理事会 議事録

日時	平成 29 年 8 月 2 日 10:00~13:00	場所	資源・素材学会会議室
----	-----------------------------	----	------------

常任理事会	理事長	新 孝一	○	副理事長 (賞選考)	岸田 潔	○	幹事長 (総務)	岡田 哲実	○
	常任理事 (編集) (地盤)	谷 和夫	○	常任理事 (資源・素材)	伊藤 高敏	○	常任理事 (土木)	清木 隆文	○
	常任理事 (材料)	西村 強	●	常任理事 (前幹事長)	長田 昌彦	○	常務理事 (国際技術)	横尾 敦	○
	常務理事 (電子 J)	児玉 淳一	●	常務理事 (RockNet)	小山 倫史	×	常務理事 (賛助会員 特別会議)	奥野 哲夫	○
	オブザーバ (元理事長)	清水 則一	●	オブザーバ (元常務理事)	安原 英明	●	事務局	富田 明日香	○

敬称略順不同, ○:出席, ×:欠席, ●:スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料 29-常任 2-01	平成 29 年度・第 1 回常任理事会議事録
資料 29-常任 2-02	平成 29 年度・第 1 回理事会議事録
資料 29-常任 2-03	社員総会議事録
資料 29-常任 2-04	第 1 回臨時理事会議事録
資料 29-常任 2-05	会員の入退会
資料 29-常任 2-06	岩の力学連合会 定款 (2015 年 3 月 1 日)
資料 29-常任 2-07	岩の力学連合会 規則 (2016 年 3 月 31 日)
資料 29-常任 2-08	理事会, 常任理事会および三役会議運営規則 (2014 年 10 月 23 日)
資料 29-常任 2-09	岩の力学連合会役員名簿 (平成 29-30 年度)
資料 29-常任 2-10	理事長就任のご挨拶
資料 29-常任 2-11	将来構想 2016 (案)
資料 29-常任 2-12	編集委員会
資料 29-常任 2-13	国際技術委員会
資料 29-常任 2-14	電子ジャーナル委員会
資料 29-常任 2-15	Rock Net 委員会
資料 29-常任 2-16	賞選考委員会
資料 29-常任 2-17	総務委員会
資料 29-常任 2-18	賛助会員特別会議
資料 29-常任 2-19	岩盤力学シンポジウムにおける特別講演
資料 29-常任 2-20	国際シンポジウムについて
資料 29-常任 2-21	ISRM 関連情報
資料 29-常任 2-22	ISRM Best Performing National Group Award への応募

【議 題】

1. 今年度の活動方針 (新) 資料 29-常任 2-09, 2-10, 2-11  
新孝一理事長より活動方針の紹介があった。これに対して以下の質疑があった。

- Q. 活動の方向性は理解できたが, 具体的なアクションプランはあるのか。  
A. 国際会議については 10 年間くらいの粗々のプランはある。なお, 2020 年にはアジア会議を計画している。  
Q. 基金はいずれ 0 になるように取り崩してしているのか。  
A. 必ずしも 0 にする必要はないが, 用途不明のまま放置は好ましくない。基金については, 財政の健

全化の達成と岩の力学の魅力を伝えるということを指向しながら有効に使うことが重要である。

2. 第1回常任理事会議事録の承認※（岡田）  
修正なく議事録は承認された。資料 29-常任 2-01
3. 第1回理事会議事録の確認（岡田）  
議事録を確認した。特に意見はなかった。資料 29-常任 2-02
4. 社員総会議事録の確認（岡田）  
議事録を確認した。特に意見はなかった。資料 29-常任 2-03
5. 臨時理事会議事録の確認（岡田）  
議事録を確認した。特に意見はなかった。資料 29-常任 2-04
6. 会員の入退会※（岡田）  
平成 29 年 5 月 22 日～平成 29 年 8 月 1 日までの入退会状況が示され、学生会員 1 名の入会と正会員 1 名の退会を承認した。資料 29-常任 2-05
7. 平成 29 年度活動方針  
岩の力学連合会 定款，規則および理事会，常任理事会および三役会議運営規則と各理事の役割分担の確認を行った。これに対して以下の質疑があった。資料 29-常任 2-06, 2-07, 2-08, 2-09
- Q. 定款の理事会とは，常任理事会なのか，または通常の理事会を指すのか。  
A. 定款の中に「理事会は常任理事会を構成して迅速に業務を執行できる。」と書いてあるので，これまで通り状況に応じて判断していいのではないかと認識している。
- Q. 役割分担の地盤工学会統括とは，定款や規則などに特に記載がないが，どのような役割なのか。  
A. 基本的には学会への連絡係の位置づけである。表彰委員の選出を各学会にお願いする時に，各学会の総括に連絡が来る場合があり，対応していただく必要がある。
- Q. 本件と無関係だが資料 2-10 の川本先生の名前に誤字がある。  
A. 部首の間違いがあるが，ワープロに漢字がない。岩の力学ニュースでは，出版社に頼んで校正で直す，WEB 上では直せないなのでこのままとさせていただきます。
8. 各委員会の委員会委員選任※，活動方針，審議，報告事項
- 1) 編集委員会（谷）  
名簿を元に委員会の委員の選任を行った。また，活動方針と活動状況が報告された。資料 29-常任 2-12
- 2) 国際技術委員（横尾）  
名簿を元に委員会の委員の選任を行った。また，活動方針と活動状況が報告された。資料 29-常任 2-13
- 3) 電子ジャーナル委員会（児玉）  
名簿を元に委員会の委員の選任を行った。また，活動方針と活動状況が報告された。さらに，6 期 12 年務められた高橋幹事の退任が紹介された。これに対して以下の質疑があった。資料 29-常任 2-14
- Q. 6 期 12 年幹事を務められた方がいた中で，他にも任期が長い方がいるかもしれない状況を理事会は把握しているのか。  
A. 編集委員会については，以前，富田さんに調べてもらった資料がある。他の委員会はわからないので，一度整理した方がよいと思う。  
C. 任期については定款などに何も記載がないので，長期でもできるような形になっている。
- 4) Rock Net 委員会（岡田）  
名簿を元に委員会の委員の選任を行った。資料 29-常任 2-15
- 5) 連合会賞選考委員会（岸田）  
博士論文集の公募が始まっていることが紹介された。資料 29-常任 2-16
- 6) 総務委員会（岡田）  
委員は理事から構成されることが紹介された。また，活動方針が報告された。資料 29-常任 2-17
- 7) ILC 委員会（新）  
ILC 委員会の趣旨が紹介された。委員は次回理事会で選任することとなった。
- 8) 賛助会委員特別会議（奥野）  
名簿を元に委員会の委員の選任を行った。また，活動方針と活動状況が報告された。資料 29-常任 2-18
9. 国際シンポジウムについて（清木，安原）  
資料 29-常任 2-20

オブザーバーの安原先生より、Rock Dynamics と YSRM2019 との共催の可能性について、状況と予算案が紹介された。これに対して以下の質疑があった。

Q. 2つの会議がなぜ共催することになったのか。

A. YSRM だけだと若い人だけしか集まらない。共催により、動員と運用の面で効率的という理由である。

Q. 前回の韓国で開催された YSRM も共催だったのか。

A. 韓国でも共催の形であったが、実態は不明である。

Q. 両会議を重ねて実施するのではなく、別会場で連続して実施することは可能か。

A. 現状の開催日程はゴールデンウィークの直後であることから、YSRM を直前に実施することは困難、直後については台風や梅雨の時期で困難である。

C. 若い人には宿泊費の2万円は厳しいと思う。

Q. 共催により会場料金50%減免とのことだが、他の場合との比較はないのか。

A. 会場料金50%減免では、例えば沖縄コンベンションセンターよりは安くなる。備品を入れずに部屋だけで万国津梁館が100万円のところが50万になる。

C. 沖縄コンベンションセンターは街中の会館と比べたら会場費は高かったが、備品込みの料金だと逆転して安くなったこともあった。

C. 会場費については連合会で基金を取り崩して支出することは可能であるが、宿泊費は参加者が支払うものであり特に学生には2万円は厳しい。名護からバスのサービスを提供するとしても、分散して泊まられると懇親会の場所等が難しい。

C. 国内の割合が多いなら、国内の人が来やすい場所を選ぶ方がいいと思う。

C. 共催のためには、かなり無理が必要という印象を受ける。

C. もし2つの会議を分けるのであれば、YSRMは10月か、11月に開催したい。

Q. 名護のホテルから車で20分とのことだが、車はレンタカーのイメージか。

A. そうである。ただし、ホテルが送迎を出すことは可能とのことだった。

C. 別会場で開催する案2に賛成である。

Q. 別会場の場合は、沖縄以外も考えるのか。

A. 前回のYSRMで沖縄開催を宣言したので沖縄がいいと思っている。

C. 沖縄でやるのであれば、街中ではなく、宜野湾辺りがよいと思う。

C. アイダン先生と開催時期の調整は可能かもしれないが、場所については強いご希望があるため、変更は難しい。

Q. 共催の案1か、別開催の案2かを今日決める必要があるのか。

A. 10月の南アフリカの会議で資料を出しておいた方がよいので今日決めた方がよい。

C. 案2で実施するとしても、何か別のキーワードを入れて一般に人たしも発表しやすいものにする必要がある。

Q. 案2で実施する場合、同じ年度で実施した方がよいのか。

A. 謝らないといけないが、YSRMを1年ずらすことも不可能ではないと思う。

C. 同じ年度で2回開催となると、スポンサーをお願いするのも難しいと思う。

C. アイダン先生は、単独開催でも予算面は解決できると考えているようだ。

C. 無理強ひせず、別々に自由に開催した方がよいと思う。

C. 予算の中の補助金、寄付等がかなり楽観的な数字が上がっていたのが気になる。最初から補助を当てにしていると厳しい場合がある。案1と案2との予算との比較があればよかったかと思う。

Q. 安原先生としてはどのような意見か。

A. 案2の方がよい。

Q. 奥野さん、横尾さんのご意見は。

A. 皆様と同じで、一緒の実施は無理があると思う。施設使用料は基金で賄えるが、ホテル等の個人負担の方の解決が難しいと思う。

A. 両会議のコラボによる技術的相乗効果がなく、お金だけのことであれば支援は可能なので案1はないと思う。

以上の議論から、別開催とする案2で進めることに決定した。また、Rock Dynamics, YSRM2019 とともに次回の理事会で予算を含めた案を示していただくこととなった。

#### 10. 規則の改訂について\* (岡田)

資料 29-常任 2-07

賛助会員の特典に関する第2章、第13条の規則の改定について説明があった。これについては質疑なく承認された。

役員を選任に関する第3章、第17条の規則の改定について説明があった。これに対して以下の質疑があった。

- Q. 文章が曖昧ではないか。  
 A. 案をいただければ修正したい。  
 C. また継続性の観点から、再任、または任期をずらすことにより改選を行う。としてはどうか。  
 C. ずらすという言葉は他の言葉に言い換えられないか。  
 C. この規則ではなく、もう一つ下のレベルの規則の方に記載した方がよくないか。  
 C. この趣旨として、ずらすことが前提なのか、又はずらすことも可能と言いたいのかかわらない。  
 C. また継続性の観点から、再任、または任期をずらす方法も可能とする。としてはどうか。  
 C. また継続性の観点から、再任、または任期を重複することも可能とする。としてはどうか。

以上、いくつか案が出たことから、次回の理事会で修正案について再提起することとなった。

#### 11. ISRM 総裁選挙への対応（岸田）

ISRM 総裁選挙について口頭で説明があった。本件は微妙な問題であるため、国際的には態度を表明せず、理事長に一任することになった。

#### 12. ISRM 関連情報（新）

資料 29-常任 2-21

ISRM COUNCIL MEETING 2017 の 14. Board proposal to change the name of the Society について紹介があった。名称の変更については、ロックネットで一般の意見も募った上で、日本としては変更には異存はないことが確認された。

上記 11 と 12 の投票については、日本の代表として岸田副理事長が行う予定であるが、都合がつかなくなった場合には、ISRM 本部役員である清水先生が行うこととなった。

#### 13. 岩盤力学シンポジウムにおける特別講演（横尾）

資料 29-常任 2-19

岩盤力学シンポジウムの特別講演について、2 つの案について紹介があった。これに対して新理事長より、3 つ目の案として、地震断層を掘削船地球で掘削してコア等を調べた山形大学の本山先生の講演が紹介された。その結果、3 つ目の案が、これまで岩の力学連合会でカバーしていないテーマであり、将来構想 2016 の中の岩盤科学技術の創生にも関連するテーマことから、特別講演として最も適切であると判断された。なお、講演者の選定は新理事長が行うこととなった。また、選定後の土木学会とのやりとりは国際技術委員会委員長の横尾理事が行うこととなった。

#### 14. 岩の力学に関する若手研究者会議について（安原）

資料 29-常任 2-20(2)

岩の力学に関する若手研究者会議の内容について紹介があった。特に意見はなかった。

#### 15. その他

##### 1) ISRM Best Performing National Group Award への応募（新）

資料 29-常任 2-22

ISRM Best Performing National Group Award への応募を行ったことが紹介された。特に意見はなかった。

##### 2) 将来構想のためのフリーディスカッション（新）

将来構想のためのフリーディスカッションの趣旨説明を行い、以下の意見があった。

- ・ 岩の力学に関する統一シンポジウムの実施に関して、調整が必要なのは事実上土木学会だけなので少し強引に進めてもよいのではないか。
- ・ まずは岩盤力学シンポジウムの中で、オーガナイズドセッションみたいなものから始めて、土木学会ではあまり扱っていないものを紹介したら人が集まり、定着するのではないか。
- ・ 会員増強の観点から、もっと学生会員を増やすべき。
- ・ 現状、岩の力学国内シンポジウムが 4 年に 1 回しかないの、その時に学生が入るだけになっている。やはり毎年シンポジウムを開催できるとよい。
- ・ 学生会員は ISRM 本部に届けているのか。
- ・ 届けてない。
- ・ 正会員の会費は 4000 円で、このうち 2000 円は ISRM に払っている。残りの 2000 円の会費で財政の改善は難しい。
- ・ 地盤工学会のように、国際会員と国内会員を分けて、国際会員を希望する人に 2000 円もらう形もある。また、単純に会費を 5000 円位にするという手もある。
- ・ ISRM への上納金を減らすとデメリットはあるか。
- ・ 昔は国際会議の頁数が会員数で割り当てられていたが、今は電子化され、頁数の制限がなくなっているので、デメリットはない。
- ・ 学生会員を増やすために、就職支援の仕組みなどを作ってはどうか。若手会議でも学生会員と企業のマッチングを考えている。
- ・ 就職プログラムのものを考えれば、賛助会員を増やせる可能性もある。

- ・ シンポジウムが毎年あるのなら他学会同様に優秀学生表彰を行えばよい。
- ・ 賛助会員とは別に，研究室会員と作ってはどうか。
- ・ 研究室会員のお金が入ったとしても個人会員が増えなければ長い目で見ればよくない。
- ・ 研究室会員のメリットは留学生にある。

16. 今後の予定

次回理事会については，本日参加されていない理事もいることから10月を目標に改めて調整する。

※ 決議・承認事項

以上